

Wood Letter

Ψ Moku推し Ψ

令和6年12月vol.52

森林環境譲与税 ご担当者の皆様へ

平素より、東京の木 多摩産材をはじめ国産木材の利用推進についてご理解及びご協力をいただき誠にありがとうございます。

12月に入り街並みがイルミネーションで彩られ、年末の慌たじろさが感じられる今日この頃、今年も残すところわずかとなりました。新年に向けて今年の活動を振り返りながら、少し一息つきたいところです。

ところで、森林が「音を吸収する」ことをご存じですか？木々は二酸化炭素を吸収するだけでなく、騒音を抑える「音のフィルター」の役割も果たしています。森の中の静けさにホッとすることもこのためかもしれません。年末の忙しい日々、少しでも森林の静けさを感じる時間を持ちながら、来年に向けた新たな一歩を踏み出してみたいはいかがでしょうか。

ということで今月も“Wood Letter Ψ Moku推し Ψ”vol.52をお届けいたします。ぜひともご参照いただき、貴団体内の関係する部署にも転送していただくなどご協力をお願いいたします。

：森づくり推進担当一同：



スパイダーを活用した作業実施状況
流通現場見学会八王子市の主伐現場にて

(1) 第2回 森林環境譲与税担当者会議

「令和6年度第2回 森林環境譲与税担当者会議」を、12月18日(水)に中野区役所会議室において開催しました。25自治体26名の方(島しょ地域は3自治体がWEBで参加)に参加をいただきました。今年度新たに森林環境譲与税の担当となった方やご担当以外の方も参加されたこともあり、アンケートには「森林環境税や森林環境譲与税の仕組みや動向を学ぶことが出来た」「税の目的の説明、森林サイクルの説明が分かりやすかった」「基金積立の留意事項を詳しく説明いただいた」という感想をいただきました。

会議の第1部は東京都からの報告・情報提供を行い、第2部では、中野区の森林環境譲与税を活用した取組についてご講演いただき、第3部では中野区役所庁舎内1階にある什器や木材の使用されている場所及び屋上緑化の見学を行いました。

中野区の講演では「譲与税充当事業の区内での検討から決定までの流れや具体的な充当事業を紹介いただいた」「譲与税の考え方の整理や予算の内部調整の手法等教えていただき参考になった」という感想を多くいただきました。

施設見学では「木材の温かみを感じられ、来庁者の一番最初に目に入る場所なのでよい活用方法だと思う」「見える形で木材がふんだんに使われており、木のぬくもりを感じることができて良かった」との感想が並びました。

この場をお借りして、ご協力いただきました中野区環境部環境課の皆様に、改めて心より御礼申し上げます。



第1部



第2部



第3部

(2) 多摩産材利用促進プロジェクト 令和5年度事例

「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」事業は、多摩産材と触れ合う場を創出し更なる利用拡大を図るため、区市町村によるモデル的な公共施設整備に対して支援するものです。

令和5年度は13区市町村24事業に対して実施しましたが、ここでは中野区における事例をご紹介します。なお令和6年度は、13区市町村27事業での実施が見込まれています。

中野区事例

区立図書館の什器整備



区立小・中学校の什器整備



(3) 多摩産材流通現場等見学会

令和6年度第2回「自治体職員対象多摩産材流通現場等見学会」を11月15日(金)に開催しました。今回は10自治体18名の方にご参加いただきました。心配された雨も朝方にはあがり、当初の行程のとおり実施できました。

今回は、木材を産出する森林はどのような場所なのか、実際に山を歩いて体験していただくとともに、その後、多摩産材を活用した施設を見学しました。

参加された皆様からは、有意義な見学会だったとの声を多くいただきました。アンケートにご記入いただいたコメントを数例ご紹介します。来年度も多くの方のご参加をお待ちしております。

参加者アンケートより抜粋

森林環境を業務で行う立場となったが、イメージだけで現場を見たことが無かったため、植林、伐採、商品化、展示までの一連の流れが見られてとても参考になりました。

多摩産材活用を予定している中で、疑問に思っていることや不明だった点について、説明者の方に分かりやすく教えてもらえ助かりました。

多摩産材の供給状況を現地を拝見しながらご説明いただいたことで、今後の私共の事業における大変貴重な参考情報となりました。

久しぶりに参加しましたが、このような自然を満喫する内容を計画していただき満足しました。

《第2回（11月15日）の様子》

八王子市伐採現場



弘沢の滝



MOKKIの森



檜原森のおもちゃ美術館



(4) モクコレ WOOD Collection 2024 Plus

12月19日・20日に「WOODコレクション（モクコレ）2024 Plus」が東京ビッグサイトにて開催されました。「東京の木 多摩産材」をはじめ、日本各地の木材製品が集まり、木材の需要喚起と利用拡大を推進する国産木材の展示商談会で、今回で9回目の開催を迎えました。

テーマ展示エリアでは「植える→育てる→収穫する→使う」という森林の循環が、緑あふれる公園をイメージした開放的な空間に展示されていました。著名人を講師に迎えたセミナーでは、準備された席が満席になる盛況ぶりでした。

主催者企画のモクコレオープンキャンパスでは、林業の魅力を企画展示やセミナーで紹介し、就活相談のコーナーも設けられました。実際に木に触れる体験型ワークショップでは、カトラリーやクリスマスツリーに飾るオーナメントを作ることができ、参加者に大変好評でした。

また、建築コンクール受賞作品の紹介やWoodデザイン賞の展示、学生コンテスト受賞作品の展示も行われ、個性的な展示物が来場者の目を引きました。

今回来場を逃した方は、ぜひ次回ご来場ください。



森林の循環をイメージしたテーマ展示エリア



2日間で13のセミナーを開催



ウッドデザイン賞2024の作品を展示



就活コーナーもあるモクコレオープンキャンパス



車でも運べる円筒型のサウナ



子育て世代に保育室として活用される木育トラック

(5) MOCTION 企画展示

木材の大消費地である東京でのさらなる木材利用の拡大に向け、国産木材の魅力を発信する拠点「MOCTION（モクション）」では全国各地の木材製品の展示が行われています。

10月24日～11月5日 秋田県



「秋田杉」を使用した家具や木工品を展示。また、秋田森林づくりカレーうどんが展示されており思わず食べたくなる。

11月7日～11月19日 茨城県



曲げに強く木目が美しい特徴を持つ「八溝材」の内装材としてのイメージを超えたNLT、DLT。角材を25本合わせた600x600mmの展示が目を引く。

11月21日～12月3日 青森県



耐久性が高く防虫効果がある「青森ヒバ」で作られた保温性の高い窓枠を展示。また、ヒバ精油やリンゴの木で作られた木工品がめずらしい。

12月5日～12月24日 隈研吾展



開館4周年を記念し隈研吾館長の展示を開催。生物的ジョイントシステムを用いて作られたモニュメントは「GREENxEXPO2027」をPRする大地とつながる樹木。

12/26～1/14はもくチャレ、1/16～2/4は山形県の企画展示となります。ご来場をお待ちしています！

ちょこっとコラム（ご存知でしたか？こんなこと）

” 植えられてから50年経過したスギの林1haの立木を全て買うといくら？ ”

1ヘクタールの立木の本数を1,000本、幹材積を550m³と仮定した場合、幹材積の80%前後を販売できますので、440m³の丸太が生産されることになります。2023年3月のデータ(日本不動産研究所)によると、スギの立木価格(市場価格から伐採、運搬等の費用を除いた価格)は4,361円/m³(北海道と沖縄を除いた全国平均価格)です。したがって、このような1haの杉林の立木は約192万円で買えることとなります。なお、具体的な価格は、地域や木の質、伐採や運搬のコスト等によって変動するため、詳細な見積もりが必要です。

*今年もご愛読ありがとうございました。令和7年も引き続きよろしくお願いいたします。

「WOOD LETTER Moku推し（ウッドレター モクオシ）令和6年12月vol.52」

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一庁舎21階中央

東京都産業労働局農林水産部森林課 森づくり推進担当

TEL03(5000)7198(直通) 担当:荒川、伊藤、小山、中田、中村

森林環境譲与税はもとより、多摩産材の利用等東京の森林・林業に関することにつきましてもお気軽にお問合せください。

TokyoTokyo Old meets New

みどりと生きるまちづくり
TokyoGREENBiz

Y-000815